

平成27年度 第3回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成27年8月10日（月） 午後2時30分から午後4時15分

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：澤井秀座長、中川雅志座長代理、粕谷健一郎委員、高木玲子委員、龍田昌樹委員、福本庸委員、小松芳幸委員、成田将之委員、伏屋渉委員、向井茂委員、本間雅彦委員、笠井孝一委員、（計12名）

オブザーバー：田辺きよみ（石狩振興局地域政策部戦略策定支援担当部長）、中野亮二（江別商工会議所）

事務局：北川企画政策部長、三上次長、白石企画課長、千葉政策推進課長、大槻企画課主査、坂本企画課主査、小島企画課主事

会議概要

1 開会

2 委員の紹介

3 （1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

【江別市人口ビジョン素案の説明】（事務局）

【江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案の説明】（事務局）

【質疑応答】

○中川委員

総合戦略素案の基本目標①の数値目標が、食関連企業の新増設数となっていますが、基本目標である「しごとをつくる」という点から、食関連産業にこだわる必要はなく、企業誘致数でよいのではないのでしょうか。

○事務局

おっしゃる通り、食関連産業にこだわるものではありませんが、ベースとなったえべつ未来戦略において食や農業に力を入れてゆくという計画になっており、総合戦略もこれを受けた基本目標になっております。

江別市では現在、西野幌の RTN パークで入居者を募集していますが、ここは食関連産業に特化して誘致しています。江別市の優位性は大消費地に近いということであり、誘致しやすく、また景気にも左右されづらい食関連産業に力を入れております。

○中川委員

わかりました。

基本目標①、（3）雇用の創出と人材育成の支援の重要業績評価指標（KPI）である0～2歳の待機児童数（年度末）について、平成26年度基準値が0人、平成31年度の

目標値も 0 人であり、そのためにグループ型小規模保育所の開設や運営を支援することですが、待機児童がいないのに事業を実施するとも取れます。江別市に待機児童が発生していて、それを解消するために支援が必要ということを説明ができるような数値のほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

待機児童数について、何月に何人という資料は手元にありませんが、特に年度の後半で発生すると聞いております。指標の下に記載がありますが、年間を通じて待機児童を解消するということを目標に、待機児童は年度をまたぐことなく速やかに解消したいという指標となっております。

○中川委員

わかりました。年度当初に待機児童は発生していますか。

○事務局

年度当初は発生していないと聞いています。

○笠井委員

今回、総合戦略の素案に数値目標が入りましたので、感じたところをお話しします。総合戦略の 4 つの目標に対して、それぞれに具体的な施策があり、それに対する数値目標がありますが、基本目標①と②の指標のほとんどは、江別市民や江別で働いている方の満足度であり、それをもって評価しようとしているように見えます。江別に住んでいる方が、そのまま住んでいただくという点では間違いではないと思いますが、江別に来てもらうという意味での目標設定はきわめて少ないと思います。

例えば基本目標②の(3) ニーズに合わせた効果的な情報発信の重要業績評価指標(KPI)である「江別市の情報発信力が高いと思う市民の割合」について、本来であれば、市民ではなく市外の人からどう思われているか、ということが目標であるべきであり、市民がどう思うかは江別市のイメージづくりとして意味があるのだろうかと思いました。

○事務局

基本目標②に掲げた新しい人の流れをつくるという観点でのご意見と思います。基本目標②自体の数値目標として、転入数と転出数の差を転入超過にするというものがあります。そのほか、江別市の認知度の上昇や、今回は空欄にしておりますが、観光施設関係を盛り込むことを検討しているところです。また、具体的施策の KPI では、17 ページの②-(2)-①に観光案内所来所数があり、市外からの人の流れを意識した施策となっております。

ご意見については今後、さらに精査してゆきたいと思います。

○小松委員

私は江別に住んで 20 年近くになります。私が住んでいる街は、私と同じように札幌など市外から転入してきた方が多いのですが、転入してきた方は、夏から秋は住みやすいが冬は雪が大変だという話をされます。基本目標④の中では暮らしやすいまちと

ということが出てきますが、雪の克服をどうするのかということについて、さらには、他市に事例がありますが、雪を資源として活用するような構想があるのかについてお聞きしたい。

○事務局

ご意見にあった除雪関係の記述は、26 ページ④- (1) -②「交通ネットワークの充実」中の、「除排雪により道路交通の確保を図り」のことと思います。

この総合戦略は第 6 次江別市総合計画のえべつ未来戦略を基に、その他必要とされる施策について、同じ総合計画のまちづくり施策の部分や、新しい事業を追加して作成しています。除排雪関係については、実施していないということではありませんが、えべつ未来戦略には含まれず、また、まち・ひと・しごと創生という観点から簡素な表現としたところ です。

ご意見のとおり、快適で暮らしやすいまちについては、雪への対応が必要となると 思いますので、その表現の仕方等について、次回に向け検討いたします。

○龍田委員

全体に係る質問です。基本目標の数値目標や具体的施策の重要業績評価指標 (KPI) には基準値と平成 31 年度の目標値があります。目標値の算定根拠や決め方について教えてください。

○事務局

指標に※印が付いていないものは既にある、総合計画やえべつ未来戦略、事業ごとの評価である事務事業評価での目標値を転記しております。また、※印が付いている新規事業に関しては、事業内容を精査し、例えば単年度の 5 倍を累計の目標にするなどで設定しております。

○龍田委員

総合戦略においては、新しいものを加えることで、これまでの目標値を上乗せするというのでしょうか。それともこれまでの目標を維持するというのでしょうか。

○事務局

平成 26 年度からスタートした第 6 次総合計画については、人口減少への対策を含むものです。総合計画は今後 10 年間のまちづくりの計画ではありますが、計画期間開始後 2 年目であり、目標達成の途中です。

今回の総合戦略は、総合計画に沿ったものとして検討しており、お互い意識しながら目標を達成してゆくという考えから、同じ目標としているものがあります。一方で、総合戦略の社会増減の目標や、その他まち・ひと・しごと創生の中で必要とされる新たな指標については、新しく設定しております。

○龍田委員

今回の総合戦略素案は幅広く網羅されておりますが、他の市町村と見比べたとき、江別市の独自部分としては、★印の新規事業であると理解してよろしいでしょうか。

○事務局

龍田委員のご指摘の通り、★印の新規事業が地方創生の目玉事業と考えております。国は地方創生の交付金の対象として、人口減少に対応し、地域の特性や状況を考慮した事業で、他の自治体の先駆的事例となるようなものを求めています。江別市としては、★印の事業を中心として、平成 27 年度上乗せ交付金と来年度以降の新型交付金を活用しながら実施したいと考えております。

ただし、新聞報道等で交付金の事業規模の縮小や地方負担の発生などが伝えられております。秋ごろに翌年度以降の新型交付金の要綱等が示される見込みですので、市として、どの事業を選択・集中するのかという議論が必要です。

○龍田委員

私もまだ、他市町村がどのような事業を考えているのかわからないのですが、そのような情報をご存知と思います笠井委員に、この江別市の地方創生の施策にパンチが効いているのかどうか、お聞きいたします。

○笠井委員

私自身は記者として出席しておりませんので、他の事例をよく知っているというわけではありませんが、同じような立場で北広島市の会議にも出席しております。今日いただいた資料を見ましても、江別市の状況は北広島市に非常によく似ているということがあちこちに触れられています。札幌近郊で同じような悩みを抱えている北広島市と江別市は、今後、具体的な施策が出そろってゆく中で、連携や情報交換の可能性があるのでないかと思えます。

江別市の総合戦略などを見ると、大学のことが良く取り上げられます。大学だけを考えると、札幌のほうがはるかに多いのですが、12 万人の都市で 4 つ大学があり 1 万人の学生がいるということは、単に数の問題ではなく、大学の存在が江別市の特徴ではないかと思えます。4 つの大学で 20 代の方が一時的にでも滞在しているということはどうとらえることができるのか、私も考えたいと思えますし、そのことがきっかけにできれば、江別市民にとって大学が良い存在になると思えます。

○事務局

先ほど、龍田委員から江別の目玉事業というお話と、笠井委員から大学のお話がありました。これに関連しまして、総合戦略 17 ページの基本目標②、具体的施策 (1) 大学が活躍するまちづくりのうち④地域と大学で連携した若い世代の地域定着に関する新規事業があります。

私たちは大学の役割が重要だと思っており、大学生の数がここ 10 年で約 4,000 人減少し、また、卒業生が市内に就職しないという状況を課題としてとらえています。これに対応するため、市内大学や市内関係機関のほか、他の自治体と連携して大都市圏に出て行かない仕組みを構築したいと考えております。具体的には、大学生の活動、例えばインターンシップやボランティアといった様々な活動と、地域の企業や施設、自治会とをつなげてゆく事業を検討中です。地域で活動した学生が地域に就職したり、

住み続けたりということをして5年後、10年後の目標として、取り組みを進めたいと思います。

○向井委員

この委員会で検討できるのは実質的にあと1回だと思います。

江別の人口を増やし、働く場を増やすということについて、例えば、地元の高校や大学を卒業した方々を雇用した企業への助成や、江別に居住する子育て世代に対する住居の提供や補助など、直接人口増加につながる具体策について、今回または次回の会議の場で議論することは可能でしょうか。

会議の進め方についてお聞かせいただきたいと思います。

○澤井座長

戦略の中では、何々に支援など具体的な内容が書かれていますが、さらに踏み込んでどのように助成し、支援するのか、組織や仕組みを作るのか、というところまでは書かれておりません。

向井委員の意見としては、もっと具体化したほうが良いということでしょうか。

○向井委員

聞き方が悪くて申し訳ありません。最終的には各市町村から総合戦略案が出てきて、国はそれぞれの戦略案に対し予算を付けるということになると思います。江別市は総合戦略のどの部分について、国に対して交付金を申請しようとするのか、そのような議論は可能でしょうか。

○事務局

先ほども少し触れましたが、総合戦略の中の新規事業である★印の事業のうち先駆性があるものについて、交付金として申請しようと考えております。それに加え、総合戦略の中の◎印をつけている地方創生先行型事業について、平成26年度予算の3月補正として議決され、平成27年度に繰り越して現在、取り組みを始めております。平成28年度以降は、国の予算が縮小されるという報道もありますので、これらの事業について、優先順位をつけながら検討したいと思います。

○向井委員

他の市町村の検討経過を見たときに、道の駅を建設し、そこで地場産品を販売することを通して雇用を生むという例があると聞いております。しかし、ここでの総合戦略は、そのような具体策を盛り込むものではないということでしょうか。

○事務局

総合戦略は施策の方向性を示すものです。具体的な事業内容については、この方向性を受け、市が翌年度予算に向けて検討してまいります。

ただ、来年度以降は有識者会議において事業の効果を検証し、毎年見直ししてゆくという作業をお願いすることとなります。そのなかで、実際の具体的な事業内容をご説明し、事業の内容を変えたほうが良いというような意見をいただきながら、事業のスクラップアンドビルドを進めていきたいと考えております。

○伏屋委員

具体的施策の KPI は全体で約 50 項目あります。今後五年間、交付金申請に当たって KPI の目標達成度合いが一つの目安になると聞いておりますが、50 項目設定することが妥当なのか、達成可能な KPI に絞るといことは考えられないのかという点につき、どのようにお考えでしょうか。

○事務局

総合戦略につきましては、毎年、検証見直しが可能となっております。指標から、なかなか成果が上がらないと判断される事業については、事業内容の見直しや指標自体の見直しも考えられます。また、総合戦略の元となっている総合計画と共通の指標もあることから、総合計画の見直しにより KPI が変更されることもあります。

○中川委員

今後、事業や指標を見直すとしたときに、設定した目標値の正しさについて議論になるのであれば、今設定している目標が適当なのかどうかということ、有識者会議の参加者が知っている必要があるのではないのでしょうか。それぞれの指標と目標値がどのような意味を持っているかということについて説明は可能でしょうか。

○事務局

10 年位前から、全国の市町村で行政評価が導入されており、これは支出した金額ではなく、事業の目的に対して外側から得られた結果で評価するというものです。江別でも平成 15 年から導入し、各事業で目標を設定しておりますが、目標については、事業を所管する各課ではなく全体で協議しながら、現状分析やかけられるコストを想定したうえで設定しております。

今回、総合戦略の中で数値目標として、多くの KPI について既存の事務事業評価や総合計画、えべつ未来戦略から引用しております。それぞれについて、十分に時間をかけ、協議を経た数値となっております。そのほか、今回新しい数値を設定しているものもあります。例えていいますと、基本目標②の(1)－④地域と大学で連携した若い世代の地域定着にあります、地域定着の取組みへの大学生参加者数については、広域連携を検討している 8 市町村で各 10 人ずつ、さらにプラスアルファとして合計 100 人としております。これについて、70 人ではだめか、200 人ではだめかということなかなか決着のつかない問題であります。

時間の問題もあり、協議の中で KPI の内容を示したうえで、すべてを検討してゆくということは考えておりません。しかし、今後の有識者会議で議論いただく中で、いかにもおかしい目標についてご指摘がありましたら、事業の所管部局に一旦戻して再度検討のうえ、説明に努めたいと思います。ご理解いただきたいと思います。

○澤井座長

中川委員のご意見も非常に重要と思いますが、一つ一つすべてを具体的に説明できるもの、できないものもあると思います。指標の数も多いことから、明らかにおかしいのではないかと数値について、事務局に説明を求めるとい形がよろしいので

はないかと思います。指標については今回初めて示されたことから、次回以降、ご確認いただきたいと思います。

○事務局

指標を含め、不明な点がございましたら個別にお聞きし、次回の会議でお示しいたいと思います。

数値目標について一つ申し添えますと、数値の中にはたとえば、テストで 80 点のものを 100 点にしたいという考え方で、努力目標として設定しているものもあります。そのような考え方についても、ご質問があればお答えしていきたいと思います。

【各団体からの事業提案について】

【提案なし】

4 その他

【次回以降の有識者会議の日程について】（事務局）

5 閉会